

令和4年度 第3回下野市学校適正配置推進協議会 議事要旨

日 時 令和5年1月31日(火) 午後2時～午後3時
場 所 石橋公民館2階 会議室2・3
出席委員 会 長 小野瀬 善行 副会長 大塩 宗里
委 員 蓬田 みどり 委 員 設樂 孝男
委 員 田熊 利光 委 員 小島 有子(代理)
委 員 高野 典男 委 員 倉井 義郎
委 員 小谷野 晴夫 委 員 宮川 長一
委 員 近藤 善昭

欠 席 者 3 名

議 事

- (1) 細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果(案)について
- (2) その他

【議 事】

- (小野瀬会長) 議事(1)細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果(案)について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 資料に基づき説明、朗読を行う。
- (小野瀬会長) 事務局から説明がありました。この検証結果(案)につきまして、これから委員の皆様方のご意見を伺いたいと存じます。表記の問題もそうですし、方向性も含めて内容についても結構ですので、委員の皆様方から確認や質問等がございましたらよろしくお願ひいたします。
- (委員A) 今回の素案については、何とか残してほしいという保護者や地域の方の思いに沿うものであり、また協議会における議論を踏まえた上で作成されていると思うので、賛成である。
- (委員B) 4ページ目の確認だが、「小規模特認校制度を学校教育のみの課題として考えるのではなく、『地域と共に』ある学校のモデルとして位置付けて、その可能性を探っていくという考え方も大切であると思われます。」とあるが、どのような意図なのか、説明をお願いします。この協議会において、私は学校だけに任せるのではなくということは何回も言ってきたが、これはどのような形にしていこうという意図があって、この表記をしたのかという説明をお願いします。
- (事務局) これまでの細谷小学校の取組の中でも、常に地域の皆様と共に活動していく、また地域の皆様の多大なご協力をいただいて、子どもたちを縦割りですべて一緒に活動できるような、教育の機会を作り出している。そういう表現があるので、やはり、この学校教育の過程の中はもちろん、地域の皆様と共に——生涯学習の部分もあると思うが——勉強をし合う。そういう学習機会をつくるという形での表記とした。
- (委員B) 私たち委員は教育長のほうから委嘱されているので、それを飛び越した提案は難しいということは十分理解するが、今栃木県内において人口が減っているのが非常に大きな問題になっている中、いろいろな施策を、細谷小学校の児童数を増やすということと合わせた形で、市全体のテーマとしてやっていくというのも重要な問題だと思っている。その辺を1行入れてもらえれば、大変嬉しいと思うが、委嘱が市長ではなく教育長なので、そこまで踏み込んだ形の提案ができるか否か。
- (近藤教育次長) 教育委員会の立場として、考え方を申し上げる。確かに今委員からお話があったように、市長部局ではなく、教育委員会から皆さんに委嘱しており、教育委員会の中での提言になるので、市全体の施策についての提言は少し難しい部分はあると思う。

あくまで教育委員会の考え方に基づいた提言ということをお願いしたい。

(小野瀬会長)

おっしゃるように、施策としては正に学校教育だけの話ではなく、やはり地域創生と言いますか、そういうものも含めた議論に当然派生、関連するところではありますが、その点の方向性も見据えた表現として読めるかなというふうに思います。他の委員の皆様からも、もう少しこういう意味で言ったらこういう表現があるのではとかありましたら、ご意見をいただければと思います。

(委員C)

4ページ、最後の段落の「令和7年度中に中間報告」というところで、「地域の大学と連携・協力のもと」という表現であるが、具体的にどのような形で中間報告、検証されるのか。今、分かっていることがあれば教えていただきたい。

(事務局)

現段階では、こちらはまだ決定項目ではないということもある。事務局としては、ある程度考えたいところであり、今回、検証を行った項目よりもさらに広い角度から、数的な問題だけではなく、学校の子どもたちや地域の方々が、今までの取組をどのように感じたかなど、そういったものについて調査を検討したい。これから下野市が外に対してアピールできる素晴らしい特徴になるかと思われるので、調査について、大学関係者の皆様にご協力をいただきたいと考えている。具体的なものはこれからである。

(委員C)

もちろんこの中間報告は、市だけでは実施できないと思うので、ここに書いてあるとおり、大学との連携によって、そういう中での調査のようなものとか、そういう中で明らかになってくるのかなと思うところもあるため、そのような協力を是非、小野瀬会長にもお願いできればと思う。

(小野瀬会長)

委員Cがおっしゃったように、あるいは事務局からも説明にあったように、どういう媒体でどのように出していくのかということも、やはり必要なことと思います。例えば、現状の枠組みで言いますと、下野市と宇都宮大学の方ではS&Uという取組で連携がありまして、そのような枠組みを使って、前回第2回の協議会の時に申しましたが、現場の先生方に負担にならないような形で、細谷小学校の校内研修であるとか、授業改善等のお手伝いに入りつつ、子どもたちがどのようなことを学んでいるかとか、どのようなことがあるかというような形で、検証して出していく。今後、それを提言に盛り込むかどうかはまだ分かりませんが、例えばS&Uのような枠組みで、改めて宇都宮大学と継続して行うというのであれば、大学と

下野市のほうで枠組みを作り、ではこのような報告書を出しましょうということが、次の作業のステップとして出てくるかなと思っております。その他、具体的な内容等含めて、委員の皆様から発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(委員D)

中間報告が令和7年度中という位置付けがあると、もう4月からは令和5年度がスタートする。令和5年度、6年度と、2か年の研究成果を研究してきたことを中間で報告するということは、先ほど会長からのお話にあったが、S&Uにおいて協力、そして検証もいただけるので、一番都合がよいと思われるが、この件につきましてはまだこれからなのか。それともS&Uは、やはり学校課題という本校の学力面の課題を追求していく期間になるので、それとは別に、繋がって研究していくということが、はっきりするのはいつ頃になるのか。なぜなら、S&Uの学校課題研究に、かなり先生方は研究を深め、年間を通して研究をしていく。そして、もう一方で、また別の研究となると、組織は少ないが、きちんとした組織立て、体制を整えなければならないので、見通しを立てるため、概略でいいので、来年はこう、再来年はこう、そして検証結果というふうに段階を付けていただけるとありがたいと思うが、その辺の見通しはどうか。

(事務局)

次年度の年間計画を立てなくてはならない時期に入ってくるが、この案が承認され、提言のとおり実施することになったら、全体のスケジュールと合わせるような年度計画を、早くお示しができるように努力していく。先ほど会長からお話があったが、例えばS&Uのような枠組みで、宇都宮大学と研究を行うのであれば、学校課題研究とまた別の研究という2つの研究を、現場の先生方に負担にならないような形で、授業改善等のお手伝いに入りつつ、子どもたちがどのようなに学んでいるかなど検証していくことになるが、大学の協力があることなので、ご了承いただきたい。

(小野瀬会長)

委員Dがおっしゃるように、S&Uは元々そういうものであるということは承知しておりますが、例えば、下野市と宇都宮大学が連携協力という枠組みの実績と言いますか、その中でS&Uを挙げさせていただきました。新たな枠組みを作るといのは、今後詰めてご相談できればと思います。

(委員B)

今まで3年ごとに見直しをしてきたものが、6年に延長したというのは、評価をしたいと思う。検証結果の最後の部分は、見直しを6年後にしたということで、その中間報告を3年後

に行うということになった形だと思う。同じようなメンバーを集めて中間報告ということではなく、もう少し、こぢんまりとした形で市民の皆様に報告をするための3年後だと思うが、やはり6年後に見直しをするということを決めたのだから、3年後はこういう形でやりますというのを、もう少し練った形で出していただければありがたかったなと思う。先生方の負担を軽減することを考えれば、6年に延ばしたことに異を唱えないが、ただ、3年後の中間報告の体制はこういう体制でやりますというのを、はっきりした形で提示をしてもらえればよかったかなという思いはある。

(小野瀬会長)

「再検証は6年後に行います、その前に中間報告を行います」というのが今回の検証結果の骨子ですが、委員Bからありましたように、中間報告をまた同じメンバーで、同じような規模でやるとなるとそれは中間なのかというようなことになりまので、その辺りもう少し議論が必要かなというのはございます。また、先ほど委員Dのお話にありました、枠組みを早めに作るということも重要と思います。検証結果にそこを入れるかどうか、事務局の判断等もあるかと思いますが、それについて事務局からございますか。

(事務局)

今後の方針まではこの提言書になかなか踏み込むことはできなかった。中間報告の段階では、公示というよりは、中間でまとめたことの発表というような形にして、外向けに情報開示をしていく。同時に広報としても大変役立つ内容になると考えている。情報開示に当たり、内部の学校関係者の方、PTA関係の方を中心に確認を取って中間報告をしていきたいと思う。

(小野瀬会長)

その辺りは、中間報告の有りようも含めて、早急になるかもしれませんが、議論を継続していくことになるのかなと思います。その意味で、事務局からの説明でもありましたが、検証結果の最後のところで「市民（保護者及び地域の方）」と表記すると、保護者とその地域の細谷地区の方にしか情報提供をしないというふうに読めてしまうので、そこは市の広報であるとか、ホームページであるとか、あるいはそういったもので広くアクセスすることができるというふうに記すと、市民、保護者及び地域の方などといったような表現も必要かなと思ったりしたのですが、その辺は事務局でご検討いただければと思います。

今日のこの時点では、なかなか中間報告でこういう枠組みで、こういう提携をして、——例えば、宇都宮大学の名前が上

がっていましたが、当然、他の大学もございますので、そういったものを含めて——継続的に審議をしていき、早めに大枠を示すことになるかと思えます。ただ、委員Bがおまとめいただいたように、6年後の検証に向けての中間報告を行うということの方向性は、我々としては確認できるところかなと思っているところですが、何か中間報告、あるいは6年後の本検証に向けて、やはりこういうところが大事なのではないかとということがございましたら、委員の皆様から広くご意見等いただければと思えます。

(委員E)

先ほどの中間報告の話の続きになるが、学校は「学校評価」というものを持っていて、どこの学校もそれを実践していて、学校を新しく、そして地域と共にある学校にするべく取り組んでいる。工夫の仕様によっては、非常にこの中間報告に役立つ材料、バックボーンになるのではないかと思うし、それならばどこの学校でもやっているのだから、例えば大学の先生方のほうに、見てもらいながら、細谷小の特色ある評価に作り上げていって、ここに結びつけていくというのであれば、経年変化も常に見続けられる。そして学校のほうも大きな負担増にはならずやっていると。全く新しいものを作り上げるというのではなく、既存のものの中で、より有効なものとして使える。そして学校のほうも、それが有効に働く形になっていくので、そのような1つの中間報告の材料の持ち方というのは、ありかなというふう考えた。

(小野瀬会長)

大変貴重なご提言だと思います。自己評価があつて、学校関係者評価があるわけですが、そこに第三者評価に似たような形で、大学関係者も含めて、第三者的な方が入って、やはり細谷小はこういうところが素晴らしいというようなことになれば、非常に中間報告としても大切な検証の結果になると思えます。ご提言ありがとうございます。

(委員F)

この学校としての取組を読むと、学校はよくやっているなと思う。頭が下がる思いである。以前行われた地域説明会で出された問題点をクリアしており、良かったなと思う。一つは、検証が3年ごとなので、年数について検討してほしいという意見である。6年後に検証を行うということと、それから中間の時期となる3年後に報告というきちんとした答えが出ているようである。もう一つは、検証結果という表現がという意見があつて、そちらは発表するという形で表現するようであった。また、先ほど委員Bから意見があつた「小規模特認校制度を学校教育のみの課題として」というところだが、読んだときに、

一般の人たちはどう感じるかなと思った。かなり高尚な表現の仕方かなということで、私個人としては簡単に、「学校教育のみの課題」というのがどういうことなのか、ちょっとピンとこなかった。規則等による児童数の量的な変異にとらわれることなく、考えてほしいという意味合いかなと、私なりに考えたが、いかがか。

(事務局)

ここで表現した方法としましては、「学校教育のみの課題として」ではなく、その後の「地域と共に」、ここが一番大きなテーマといえますか、そちらにかかるように、表現をしているので、言葉ですが、「学校教育」というところが表現として少し硬いのかなということもありますが、子どもたちの問題だけでなく、地域を含めた全ての課題というふうに捉えていただければと思う。

(小野瀬会長)

どうしても量的なもの、国として1学級数とか、そういうものが教員の配置など決まっている中で、そういう枠組みにとらわれずという、なかなか難しいところもありますが、正に学校教育のみならず、様々な政策のテーマになり得るところなので、非常に難しいところかと思えます。

今年度ご参集いただきまして、これまでのご発言を基にまとめ素案ができたわけですが、何かご発言はありませんか。

(特になし)

そうしましたら、議論を打ち切るわけではないのですが、検証結果について、大枠の方法というものが承認されたということで、進めたいと思います。ただ、委員の皆様からご指摘、ご発言がありましたように、中間報告というものの位置付け、意味付けというものを可能な限り早めにお示しをして、再度集まるということは不可能だとは思いますが、可能な限り、メール会議等で、あるいは郵便物の配布によって確認いただくということが重要になってくると思います。そこを考えますと今後のスケジュールについて、事務局からご提案があるかなと思います。

この検証結果につきましては、原案として承認という形にしていきたいと思えます。私の手元にある事務局からの資料によりますと、来月2月17日の教育委員会定例会において、こちらが報告されるということになっておりますが、2月17日の前に、可能であれば、中間報告について詰めたものをお示しできるのかどうか、その辺のスケジュールについて、事務局の方からご説明あればよろしく願いいたします。

(事務局)

今回の検証結果を加除修正したものを、教育委員会定例会1週

間前の2月10日までに、委員の皆様へに郵送し、そこでご了承いただいたものを提言書として挙げていく。

(小野瀬会長)

それでは引き続き、委員の皆様にご意見や確認をいただくこともあるかと思っておりますけれども、よろしくお願ひいたします。そうしましたら、議事(1)細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果(案)につきましては、こちらの案のとおり、今後一部修正が入るということも含めて、承認ということで進めたいと思ひます。審議ありがとうございました。そうしましたら、議事(1)は終了ということで、次の議事に進みたいと思ひます。続きまして、(2)その他につきまして、事務局からよろしくお願ひいたします。

(事務局)

今後のスケジュールは、2月17日の教育委員会定例会に、検証結果を提言書として提出し、教育委員に協議をしてもらう。続いて、市長を加えた市総合教育会議を開催し、提言書を基に十分な意思疎通を図り、細谷小学校の方向性について決定する。その後、市議会への説明、保護者・地域説明会を実施し、検証結果の概要を広報しついでに掲載する予定である。

(小野瀬会長)

ただいまのスケジュール等につきまして、何らか委員の皆様方から確認、質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

〔特になし〕

(小野瀬会長)

それでは予定されておりました議事につきましては、本日全て終了いたしました。委員の皆様方には、長時間、議論等ありがとうございました。進行を事務局に戻したいと思ひます。

(事務局)

委員の皆様には、これまで年間を通して、誠にありがとうございました。お陰様で、本日、提言書がまとまりましたので、先ほど申したスケジュールのとおりに進めていきたいと思ひます。本日の会議は閉会といたします。